

# 令和4年度 財務書類の公表

菊池広域連合

# 菊池広域連合令和4年度決算の財務書類

## 新しい地方公会計制度のはじまり

これまでの地方自治体の会計は、家計簿のような「現金主義」を採用していました。「現金主義」とは定められた予算の中で現金を支出するため、予算をまとめやすく現金の流れのみを把握していました。

しかし、「現金主義」では資産・負債などのストック情報(※1)や減価償却費などのフロー情報(※2)が見えてきません。

きっかけは現実起こった自治体の財政破綻。住民への行政サービスの低下を防ぐためこれまでに地方自治体の資産・債務管理に関する公会計整備推進の法律や方針が示されてきました。

国は地方公共団体に対し、「資産・債務管理」「将来の施設の更新維持管理費の把握」を強く求めています。平成18年6月2日に「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律（行革推進法）」が施行され、同年8月31日に総務事務次官通知にて発生主義の活用及び複式簿記の考え方の導入を図り、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書の4表を整備することが求められました。

統一モデル財務書類は、原則として平成27年度から平成29年度までの3年間で準備期間とし全ての地方公共団体において作成するように要請がありました。（平成27年1月23日付総務大臣通知「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」）

菊池広域連合はこの要請に基づき、平成28年度決算以降、統一モデルの財務書類4表（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）を作成しています。今回は令和2年度の決算の報告を行います。

※1ストック情報・・・資産や負債などの一定時点の状態を表します。

※2フロー情報・・・人件費や物件費などの一定期間の実績の情報を表します。

## 財務書類とは

予算書や決算書など今までの公会計とは別に菊池広域連合の財務状況を表す新たな取り組みとして次の財務書類を作成しました。

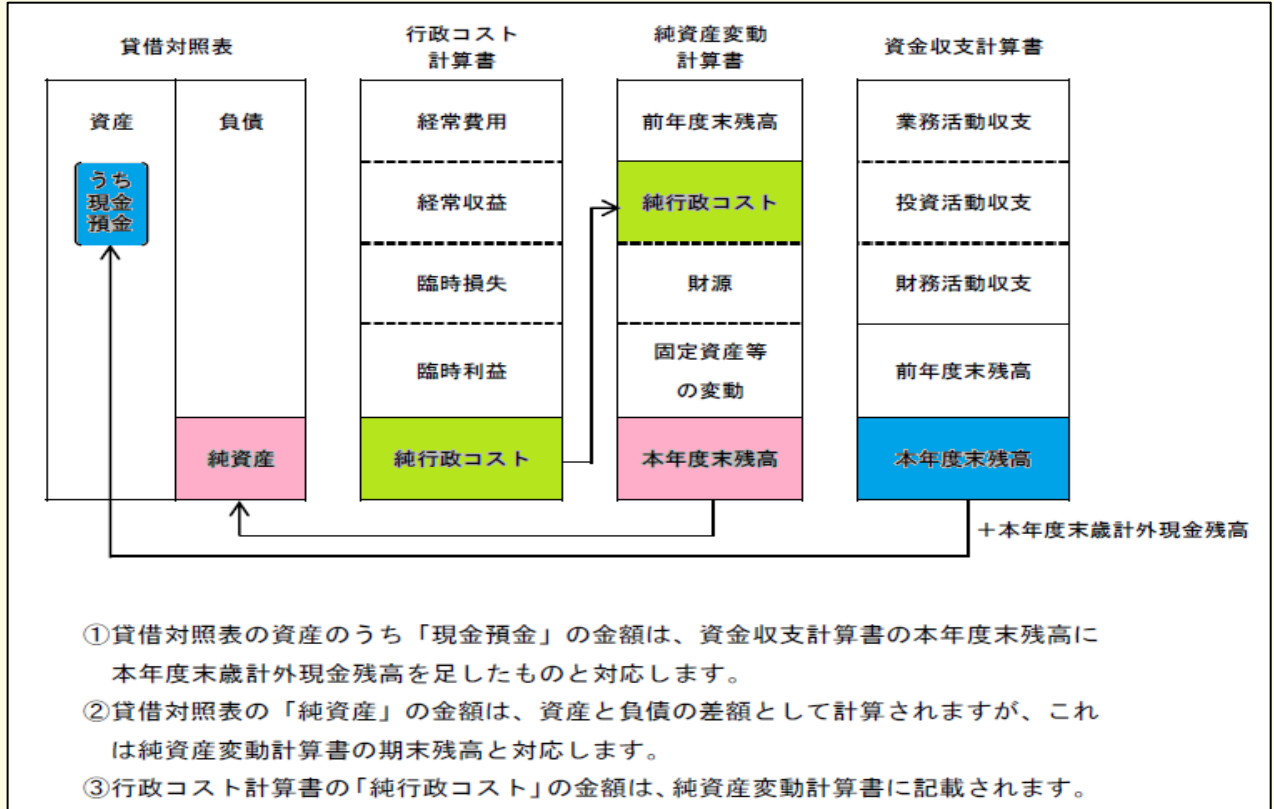
- (1) 資産や負債の状況などを表す「貸借対照表」
- (2) 人件費や減価償却費などの経費を表す「行政コスト計算書」
- (3) 純資産の一年間の変動内容を表す「純資産変動計算書」
- (4) 資金収支の状況を性質別に3つの区分に表す「資金収支計算書」

以上の4表を表したものが財務書類と呼ばれ、財務状況の確認のための情報でもあります。

また、統一モデルの特徴として固定資産台帳を対象となる決算の時点（今回は令和4年度のため令和5年3月31日時点となります）で菊池広域連合として実際に保有している資産について棚卸を行い評価して計上しているため、資産の保有状況を把握できます。

# 財務書類の相互関係

統一モデルによる財務書類4表の相互関係は下図のとおりです。  
 菊池広域連合の財務書類4表についても下図の相互関係が確認できています。



## 貸借対照表 (BS:バランスシート)

貸借対照表(バランスシート)は、令和5年3月31日時点で菊池広域連合が保有している資産とその資産を取得するために使ったお金の調達方法をあらわしています。現金の収支に注目する従来の決算書では把握することができなかった、菊池広域連合の財産や負債などこれまでの資産形成の結果を知ることができます。

一般会計等財務書類 貸借対照表 単位:(千円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
有形固定資産等	3,517,924	固定負債	795,027
有形固定資産	3,517,649	地方債	412,126
無形固定資産	275	退職手当引当金	382,901
		その他	0
投資等	300,102	流動負債	241,243
投資及び出資金	0	地方債(一年以内)	130,482
基金等	300,102	賞与等引当金	104,819
その他	0	その他	5,942
流動資産	488,019	負債合計	1,036,270
現金預金	138,685	<b>【純資産の部】</b>	
未収金	0	固定資産等形成分	4,167,361
基金	349,334	余剰分(不足分)	△897,585
その他	0	純資産合計	3,269,776
資産合計	4,306,046	負債及び純資産合計	4,306,046

有形固定資産等  
 道路や学校など  
 自治体が保有する  
 公共施設等の  
 総額

投資等  
 特定の目的で積  
 み立てた基金や  
 出資金などの総  
 額

流動資産  
 現金・預金と現  
 金化しやすい地  
 方税などの未収  
 金の総額

固定負債・流動負債  
 地方債の残高や退職  
 手当などの総額  
 将来世代が負担する  
 金額

純資産の部  
 道路や学校等の整  
 備の財源として受  
 けた国や県からの  
 補助金や地方税な  
 どの総額  
 これまでの世代が  
 負担してきた金額

# 行政コスト計算書 (PL)

行政サービスを提供する際に発生する支出のうち、資産の取得（土地や建物の購入）に関わらない支出と行政サービスの対価として得られた収入を計上しています。経常費用が経常収益を上回っていますがこれは行政コスト計算書上の収入に、行政サービスの直接的な収入のみを計上しているためです。

一般会計等財務書類 行政コスト計算書 単位：(千円)

科目	金額
<b>経常費用</b>	2,316,394
業務費用	2,118,406
人件費	1,344,310
物件費等	770,137
その他の業務費用	3,959
移転費用	197,988
補助金等	196,869
社会保障給付	0
他会計への繰出金	0
その他	1,119
<b>経常収益</b>	40,036
使用料及び手数料	37,206
その他	2,830
<b>純経常行政コスト</b>	<b>2,276,358</b>
<b>臨時損失</b>	0
<b>臨時利益</b>	41,904
<b>純行政コスト</b>	<b>2,234,454</b>

## 人件費

主に人にかかるコストです。職員給与のほかに賞与等引当金や退職手当引当金の繰入額が計上されています。

## 物件費

主に物にかかるコストです。物件費のほかに、施設の維持補修費や減価償却費が計上されています。

## その他の業務費用

支払利息、貸付金、保険料等が計上されています。

## 移転費用

社会保障給付や他会計への繰出金、補助金等が計上されています。

## 経常収益

行政サービスの直接対価である使用料や手数料、財産貸付収入、現金利子、雑入などが計上されています。

## 臨時損失

災害復旧費や、資産売却損などが計上されています。

## 臨時利益

資産売却益やその他臨時的な雑入等が計上されています。

# 純資産変動計算書 (NW)

貸借対照表の純資産の部の増加要因と減少要因を計上し、純資産が1年間でどのように変動したのかを示しています。純資産の増加要因には、行政サービスの対価として支払われる以外の収入（税収や国・県からの補助金等）があり、減少要因には、行政コスト計算書で算出される純行政コストや評価差額の減少分が計上されます。

一般会計等財務書類 純資産変動計算書 単位：(千円)

科目	合計
前年度末純資産残高	3,169,742
<b>純行政コスト (△)</b>	<b>△ 2,234,454</b>
<b>財源</b>	<b>2,384,015</b>
税収等	2,378,300
国県等補助金	5,715
<b>本年度差額</b>	<b>149,562</b>
<b>資産評価差額</b>	0
<b>無償所管換等</b>	<b>△ 49,528</b>
<b>その他</b>	0
<b>本年度純資産変動額</b>	<b>100,034</b>
<b>本年度末純資産残高</b>	<b>3,269,776</b>

純資産が昨年度よりも増加した場合は、負債の増加より資産の増加のほうが多かったことを示しています。

逆に純資産が減少した場合は、行政コストが多くなっていたり、資産の増加より負債の増加が多かったことを示しています。

# 資金収支計算書 (CF)

貸借対照表の現金が1年間でどのように変化したのかを示しています。現金の使いみちにより、業務活動、投資活動、財務活動3つの区分に分け、どのような行政活動にいくら使ったのかが分かります。

一般会計等財務書類 資金収支計算書 単位：(千円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	2,025,135
業務収入	2,424,052
臨時支出	0
臨時収入	0
業務活動収支	398,917
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	366,423
投資活動収入	60,456
投資活動収支	△ 305,967
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	168,446
財務活動収入	101,500
財務活動収支	△ 66,946
本年度資金収支額	26,004
前年度末資金残高	106,739
本年度末資金残高	132,743

## 業務活動収支

行政サービスを行う中で、毎年継続的に収入・支出される金額が集計されています。人件費や物件費が含まれます。

## 投資活動収支

学校、道路や公共施設等の資産に関わる投資活動収支や貸付金や基金の収入・支出の金額が集計されています。

## 財務活動収支

地方債等の借入・償還等の金額が集計されています。

# 家計簿に置き替えると

資金収支計算書を**年収400万**の家計に置換えると・・・

家計の収入項目		
	収入額	構成比率
収入	給料	352万 88.3%
	諸手当	1万 0.2%
	パート収入	6万 1.5%
	実家からの援助	0万 0.0%
	貯金の取崩	9万 2.2%
	銀行の借入	15万 3.8%
	繰越金	16万 4.0%
	収入合計	399万 100%
家計の支出項目		
	支出額	構成比率
支出	食費	198万 52.0%
	光熱水費	73万 19.2%
	保険料等	1万 0.2%
	親戚への援助	29万 7.7%
	医療費	0万 0.0%
	子供への仕送り	0万 0.0%
	家の増改築	25万 6.5%
	貯金	30万 7.8%
	借金の返済	25万 6.6%
	借金の利息	0万 0.0%
	支出合計	380万 100.0%
	収支	19万 の黒字

